

今月のトピックス

- ・主目的は情報収集。商談に期待も ……《かづの産業見合市 アンケート結果》
- ・情報発信の手法を課題に ……《鹿角ブランドアップ戦略レポート》
- ・旨牛喰会（めえべごかい） ……《鹿角牛1頭買モデル事業》
- ・1/3の時間 ……《室長コラム》



かづの産業見合市アンケート結果から

～来年度のさらなる躍進に向けて～

今年で2回目の開催となった「かづの産業見合市(以下「見合市」)」。新たに「個別商談会」を同時開催するなど、第1回目の内容をさらに補強して開催しました。当日は、出展者の皆様、来場者の皆様それぞれに対しアンケート調査を実施していますので、その結果の一部と今後の方針についてお知らせし、次回開催の改善点として繋げていきます。

【来場者アンケート集計結果から】 ※回答者60人分の集計結果（高校生分は別途集計）

① 業種別来場者数（グラフ1-1）

小売、卸売、外食産業、観光・宿泊産業、個人事業主と、出展者の顧客候補と思われる方が、約4割程度を占めています。主催側としても、出展者の協力を得ながら、来場者全体を増やしつつ、特に、出展者それぞれの顧客候補の来場を増やし、商談のきっかけとなるよう努めていきます。

② 来場目的（グラフ1-2）

明確な「商談」目的での来場者は8%程度ありますが、9割程度の方々は「情報収集・視察等」目的でいらしており、このことは、見合市が「商談」の場として大きく期待されていると表れと考えられます。この方々が「商談」を目的にいらしてもらえよう、主催側としても努めていきます。

③ また来場したいと思うか（グラフ1-3）

「是非来場したい」との回答の方が4割強、「内容次第で来場したい」方を含めると8割以上の方が「また来たい」との回答となり、見合市への期待の高さがうかがえます。

この前問（非掲載）の参加満足度の回答には、半数以上の方が「満足」と回答しておりますが、「普通」と答えた方が4割強いることから、この「普通」の方々の満足度を高めるよう、主催側・出展者共に努めていくことで、次回の来場に繋げていきたいと考えます。

④ 高校生の方からいただいた意見

どの出展者に対しても、大変興味深く参観されたようで「よい体験となった」との意見もいただいています。地域の未来そのものである高校生からも大変好意的に受け止めてもらったのは、大きな成果ではないでしょうか。

【出展者アンケート集計結果から】 ※全45出展者から頂いた回答の集計

① 出展目的（グラフ2-1）

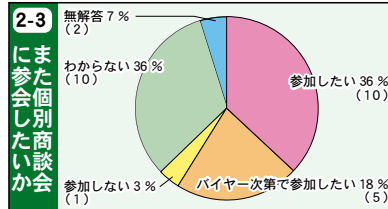
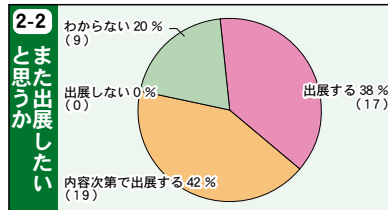
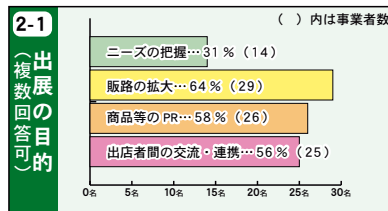
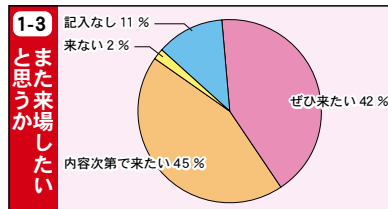
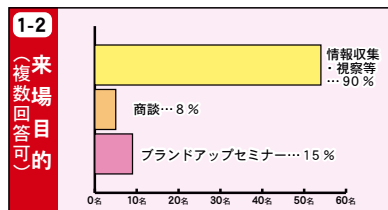
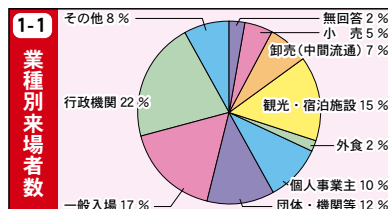
見合市の一番の趣旨は「異業種間連携による付加価値の創出」としてはいますが、現実としては「販路の拡大」に繋がることも期待されていることが伺えます。異業種間連携の促進も図りつつ、商談のきっかけも提供できる見合市を目指します。

② また出展したいと思うか（グラフ2-2）

8割以上の出展者が、次回も出展を検討したい内容の回答となりました。見合市は出展者同士の連携の場でもあることから、多くの市内事業者の方から出展頂くほど、その意義が高まります。「内容次第で」との回答も多いことから、出展者にとってさらに魅力のある内容を取り入れていきたいと思ひます。

③ また個別商談会に参加したいか（グラフ2-3）

個別商談会には28出展者が参加しましたが、次回も参加したいとの回答が5割以上となりました。逆に「参加しない」「わからない」との出展者も4割程度あり、今回の商談相手が顧客としてあっていないと考えられることから、調査の上次回の改善点とします。また、今回は商談先が食品系のみであったことから、業界の異なる商談先も可能か検討していきたいと思ひます。



【鹿角ブランドアップ戦略レポート】

コミュニティFM プロジェクト

11月10日、「鹿角観光ふるさと館あんたらあ」で開催された「きりたんぼ発祥まつり」において、番組編成チームメンバーが進行役を務めました。幅広い年齢層のお客様や出店者の皆様と掛け合いを繰り広げるなか、お客様をいかに退屈させないか等、構成面の大切さを実感しました。



番組編成チームが進行役に

11月16日に行われた「街中ぐるっと食べ歩きAKBar」では、パーソナリティを務め、花輪大町・新町商店街通りに設置されているスピーカーを通し、お料理の紹介などを放送しました。料理の見た目や味など言葉だけで伝える難しさを体験しました。

11月27日には、ラジオやテレビ番組で活躍しているフリーアナウンサーの石川文子さんを講師に迎え、「第1回アナウンス研修会」を行いました。「部屋の中で一人でしゃべるのではなく、ラジオの向こうにいるエリア内3万人に届くように意識しながら話さなければならない」とのアドバイスを受け、発声、発音の基礎の指導を受けました。アナウンス研修は今後も行う予定です。



フリーアナウンサー石川文子さんを講師にアナウンス研修

桃 花 プロジェクト



かづの北限の桃とドレッシングに

桃花プロジェクトのメンバーの秀果園・佐藤一さんの桃の缶詰がこの度の「旨牛喰会（めえべごかい）」の桃のソースに使用されました。缶詰でも生の食感を意識した完成度の高いものとなっておりますが、それを贅沢に使用した桃のソースにアレンジしました。鹿角産冷凍桃と桃の缶詰をブレンドし、繊維を残した絶妙のバランス。さらに鹿角産のはちみつを入れる事でまろやかさを醸し出しています。新しい桃の缶詰の可能性を感じました。



冷凍桃と桃缶ミックス

旨 牛 喰 会

11月30日夜、道の駅かづので、かづの牛1頭丸ごと味わうイベント第1回「旨牛喰会（めえべごかい）」を開催しました。これまで鹿角市のブランドアップ戦略推進事業の中の、農商工観光連携事業で知り合った首都圏の9人の方々がかづの牛に惚れ込み、1頭購入した事からこのイベントが企画されました。全国的にも希少な日本短角種「かづの牛」は、幻の牛と言われ、1頭購入しないと内臓肉や希少部位が食べることが出来ず、今回はオーナー様のご厚意によって実現した経緯がありました。当日は悪天候にも関わらず、首都圏から駆けつけて下さったオーナーはじめ、市内の農商工観光関係者約50名で、肉の試食、鹿角産フルーツや松館しばり大根



希少な部位を焼肉で味わう



かづの牛のモツ煮こみ

を使ったソース、レストラン味館シェフのモツ煮やテールスープ、鹿角のワイン、地酒、淡雪こまち玄米・白米など“オール鹿角”を堪能し、改めて、鹿角の地域資源の豊富さと品質の良さを認識しました。

今後は、一般消費者の1頭購入がビジネスモデルとして成立するかの検証や、そのための制度の組み立て等を関係者で協議し、構築して行かなければなりません。

これまで鹿角を知らなかった人たちが、また鹿角に来て食べて、飲んで、泊まってもらうために私たちが当たり前と思う事を、体験した事が無い首都圏の人たちへ発信して行きたいと思います。

参加された方が言うておられました。「私たちは非日常を求めて鹿角に来ます。ここにはそれがあります」と。

つ ぶ や き ～ コ ラ ム ～

最近、少子高齢化云々と世間では話題が絶えないが、若くして志し半ばで亡くなる人達も多いように感じる。この数年で芸能界でも多くの貴重な財産がこの世から去ってしまった。自分の周辺にも増えてきた。と、決して暗い話をするつもりはなく、若かりし時に我が尊敬する師から「人は50才までに何かコトを成し遂げ、名を成さなければならぬものだ」と言われ、続けて、当時35だったので、「50までは後、15年あるが、一般的に睡眠時間が8時間とすると、人生の1/3の時間は寝ていることに

なる。正味後10年しかないぞ、そう考えると今何をやらなければならないか、自ずと分かってくるだろう。」この言葉は、これまでの多くの苦言の中でも特に肝に銘じているところである。現在進めているブランドアップ戦略も10年プロジェクトであるが、既に2年目が過ぎようとしている。後8年・2.4年＝5.6年しかない。おちおちしてられない。時代の変化もめまぐるしい。あせらずも、もちろん古き良きものを残しながら、時代の先端を走る憧れの鹿角もいいかなとも思う。孔子曰く「後世畏るべし」である。因みに健康のため睡眠は充分とりましょう。（ブラードル）



ヒト・モノ・ワザ情報
お待ちしてます!